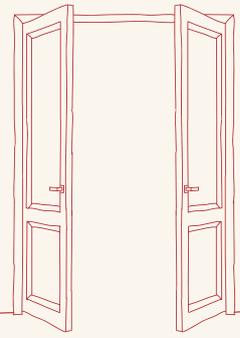


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.21



先代からの農地で、地域の仲間たちと有機農業を実践

元十日町市職員

南雲 洋一さん (65歳)

2009年3月定年退職

【なくも・よういち】1950年生まれ。大学卒業後、民間企業を経て1984年、新潟県川西町（現十日町市）入庁。建設畑を中心に中山間地域の活性化を推進する町づくり、特産品開発等に携わる。十日町市では観光交流課で現代野外アートの祭典「越後妻有アートトリエンナーレ大地の芸術祭」の立ち上げと第1回～3回までの運営マネージメントを行った。2011年仲間たちと共に「魚沼じゅんかん米組合」を設立。現在、組合長として会務の総括全般にも携わっている。



—南雲さんは定年退職後、本格的に農業に参入されたそうですが、どのくらいの農地で、何を作られているのですか。

水田1ヘクタールでJAS有機認証魚沼産コシヒカリを、畑地0.7ヘクタールで季節ごとの路地野菜（栽培期間中化学肥料及び農薬不使用）を栽培しています。

JAS有機認証魚沼産コシヒカリは、直接、米問屋やデパート、専門店のバイヤーを通して販売しています。路地野菜は、近くのJ直売施設やJ経由で市場に出荷しています。

—農業を始められた、きっかけを教えてください。

私は役場の農林課にいた頃「生ごみ堆肥による有機農業の推進」に関わりました。また、衛生工学を学ぶ専修学校では下水道分野を学んだのですが、農業に使う堆肥の生成過程や土壌細菌による有機物の分解は、水処理や脱水汚泥のコンポストとも密接に関係しています。それらがきっかけとなり、本格的に農業をしようと思えました。

—農業を始められることについて、ご家族の反応はいかがでしたか。

先代から続く農地が1ヘクタール程度ありましたので、家族の反対はありませんでした。「自分の人生は唯一つしかない」という私の生き方を、家族も理解してくれています。

—再任用の話はなかったのですか。

私が退職した当時は再任用制度が定着していませんでしたが、それでも同僚の多くは公民館や教育委員会のパート、市の外郭団体で働く道を選びました。私は「食の安全や安心も含め有機農業の素晴らしさを実践することが大切だ」と考えていたので、農業の道を選択したのです。

—農業の収入は安定しているのですか。

残念ながら年間の農業収入は150万円程度です。ただ、年金外の収入として考えた場合、妻と2人の生活費としてはありがたい収入です。

—農業をされている中で、最も大変なことは何ですか。

昨年は順調に育っていたコシヒカリが夏の長雨と日照時間不足、熱波の影響で未成熟米となり、販売できませんでした。農業を収益をとまなう産業として考えた場合、天候不順による適温適作ができなくなるのが最も大変なことだと思います。

農作物は基本的に1年に一作しかできません。やり直しができない産業です。加えて、私たちのような小規模有機農家は、自ら資金調達し自ら販路拡大しなければならぬが大変です。

—やりがいを感じるのはどんなときですか。

風土水、天候周り、除草や肥料のタイミング、種まきの頃合いがすべてうまくいったときには豊年満作（作物が豊かに実り、収



生ごみ処理機による地域由来の循環堆肥づくりでは年間20トンを生産



有機米貯蔵庫として雪室施設も整備



地域と人を銀座から応援するイベント「ファーム・エイド銀座」に出展



孫の「琥珀」「泰地」満1歳誕生会で家族と共に

除草用ロボットの実証試験



種の多いこと) となります。これらの要素を巧みに読むことによって収量が上がったとき、一番やりがいを感じます。

——仕事はいままで続けるつもりですか。

私は2011年、有機農産物の販売を自ら実践することを目的に、仲間たちと「魚沼じゅんかん米組合」を設立しました。生ごみ堆肥施設や雪室貯蔵施設をつくり、有機農業の生産基盤も整い始めました。

有機農産物の販路拡大も少しずつ伸びています。このような有機農産物の付加価値を高める施設を組合で保有することにより、有機農業に新規参入する人々の受け皿になることができます。

後はヤル気のある担い手の立候補を待つばかりです。私は現在65歳ですので、70歳になる2020年の東京オリンピックが一つの区切りだと思っています。

——今後やりたいことは何ですか。

有機米は手間がかかる分価格が高くなっています。ですが、安心安全で美味しい有機米を消費者にも購入しやすい価格で提供できるようにしていきたい。

そのためには有機栽培面積を増やすことと、有機米作りで最も重労働で時間とコストのかかる除草作業の軽減化が必要です。除草ロボットによる田んぼの除草作業の実証試験は昨年度に引き続き本年も実施し、農業現場からのイノベーションをぜひ実現したいと考えています。

また、JAS有機認証米は、TPPに係る農産物輸出において、安全基準や食味・価格等の観点から唯一外国産米に対抗できる数限られた輸出品目の一つです。

今後は、JAS有機認証米の輸出のための海外での受入れと販売拠点づくり並びに直接現地にて有機米を栽培し販売する現地生産法人づくりを、多くの人々の知恵と経験そして信頼関係の中でしていきたいと考えています。次の担い手が有機農業をアグリビジネスとして地球規模で発展継承していくために。

——最後に、現役の地方公務員の方にメッセージをお願いします。

私は「地域住民の方々の幸福と安全を最大限に考え、実行すること」が吏員の道だと思いつ事をしてきました。地方公務員の方には、このことを仕事の糧に、また自分の立ち位置に思えばと思います。

今自分が行っている職務が将来こんなことに役立つ、応用できるということを念頭に置くことも大切です。そのためには、現役時代にどんなスキルを積み上げればいいのか、どんな人間関係をつくらればいいのか、どんな資格をとればいいのか等々を考える機会を日々作ることも大切です。

皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

——お話、ありがとうございました。